

生涯にわたって
社会のいたるところで学ぶための方法序説

生涯学習講座をきっかけに地域を担う
「まちのひと」になる

安西 春樹

提案・生涯学習講座をきっかけに、地域社会を担う「地域の人」を目指す活動を考えてみてはいかがでしょうか。

学習講座をきっかけに学びの場を自ら作る

中央区では、区民の生涯学習のきっかけづくりとして歴史、文化、現代社会から趣味、伝統芸能まで様々なテーマの学習講座を年間約90講座ほど中央区民カレッジとして開催しています。そのカレッジの中で、「学んだことを地域にいかす」を目標とした生涯学習サポーター養成コースを設けています。

今回は、そのコースを修了後に自主的な学習グループの立ち上げを行った「中央区地域活動コーディネーター「わ」(通称「わ」の会)」の紹介をします。

2021年度に実施した中央区民カレッジ生涯学習サポーター養成コース「地域活動をはじめ

めよう！」講座をきっかけに、講座修了後に有志で月1回の集まり(勉強会)を続け、今年3月に自主グループを立ち上げました。

講座では、個々が「地域活動」を目指す中、特に活動の中での人との関わりに必要な「対話」(傾聴・聴くこと・話すこと)に重点を置き、地域活動・ボランティア活動を考える学び合いを行いました。

そして修了後の勉強会で、参加者個々の地域での実践や日々の生活課題について話をし、話を受け取り、受容と共感を持って理解し合う学びを実践してきました。また、情報交換として地域の出来事やイベント、個々が関わる活動へのお誘いなどを通して、相互の活動実践(地域活動)を目指してきました。

「自分たちの学びの場は自分たちで作る」をモットーに、時間ばかりでしたが、必要な学びの場としての枠組みを考え、議論し、ようやく「会」(自主グ

ループ)という形を作ることができました。

グループ化に向けて

まずは、定例的な場を確保するために、中央区のボランティア団体(生涯学習サポーター)として登録することを目標に、団体設立の準備を勉強会を続けつつまとめていきました。

我々が目指すものは何か、そのために必要な場と「思い」の共有を毎回話し合い、文章の形にすり合わせて、中央区地域活動コーディネーター「わ」(通称「わ」の会)を発足。活動として次の7つの項目を掲げ、また登録に必要な会則と名簿、活動計画等を整えていきました。

【通称「わ」の会】

- ①地域で取り組む活動を実践するために必要なコミュニケーション(対話)についての勉強会
- ②地域活動・ボランティア活動・学習活動の情報交換と交流活動、ボランティア互助活動

(助っ人ボランティア)

③LINEを使った「議論をしない情報交換」

④誰でも、いつからでも参加できる地域の居場所(ゆるやかなネットワークの井戸端会議)

⑤行政および社会教育団体の各事業への協力・広報活動

⑥会員の資質向上のための研修活動

⑦その他、「何かはじめたい」を仲間と共に実践していく活動

立ち上げに向けて、多くの時間を取って議論をした部分は、③のLINEを使った「議論をしない情報交換」と、④誰でも、いつからでも参加できる地域の居場所の2点でした。

前者については、それぞれが

中央区地域活動コーディネーター「わ」
通称「わ」の会は、こんなところ。一緒に活動しませんか？

2021年、まだコロナの状況が不安定な時期にわたしたちは中央区民カレッジ生涯学習サポーター養成講座「地域活動をはじめよう！」を受講しました。

集まった受講生は、中央区内ですでにボランティア活動や地域活動を実践されている方、また、これから何か地域での活動を始めようとしている方でした。

養成講座では、講師をつとめた米本嗣子さんの「傾聴」の手法を通じて、あらゆる活動の根本となる「コミュニケーション」「対話」の重要性をグループワークを交えて実践的に学びました。

講座を修了しても、まだまだコミュニケーションの取り方や「受容」と「共感」をもって人の話を聴くことの難しさを痛感していたこともあり、講座後も自主的に勉強会を続けていくこと、また同じ地域で活動する仲間とのゆるやかな学び合いの機会を続けていくことの大切さを実感し、月に1回程度の集まりを続けてきました。

集まりの中では、「受容」と「共感」による「聴くこと」を意識してメンバー間士の近況報告や地域活動での盛りごとなどを共有し、また、それぞれの活動のお手伝いの情報交換を行ってきました。

現在メンバーは約10名。中央区内には同じようにこのゆるやかなネットワークを必要としている方々もいるのではないかと考えて、この集まりは出入り自由、来るもの拒まず、去る者追わずの方針の会を決定することとなりました。

会の目的、活動の内容に賛同し、学び合いの輪を広げていきたいと思われる方は、ぜひ活動を覗いていただいて、ご自身の学びの場にいただけたらと思います。

【活動内容】

①各活動を実践するために必要な、より良いコミュニケーションを目指した勉強会活動

【傾聴勉強会】

②各会員の地域活動・ボランティア活動・学習活動の情報交換と、交流活動、ボランティア互助活動(助っ人ボランティア)

③LINEを使った議論をしない情報交換

④誰でも、いつからでも参加できる地域の居場所(井戸端会議)(ゆるやかなネットワーク)

⑤行政および社会教育団体の各事業への協力活動・広報活動

⑥会員の資質向上のための研修会活動

⑦その他、「何かはじめたい」を仲間とともに実践していく活動

「わ」の会はこんなところ

な齟齬の発生や、タイムラグのある議論への参加に気後れしたり、発言がはばかりなことがある。攻撃的な言葉のやり取りに発展し嫌な思いをしたりという経験が少なからずある。それがわかっている。そのことを踏まえて議論

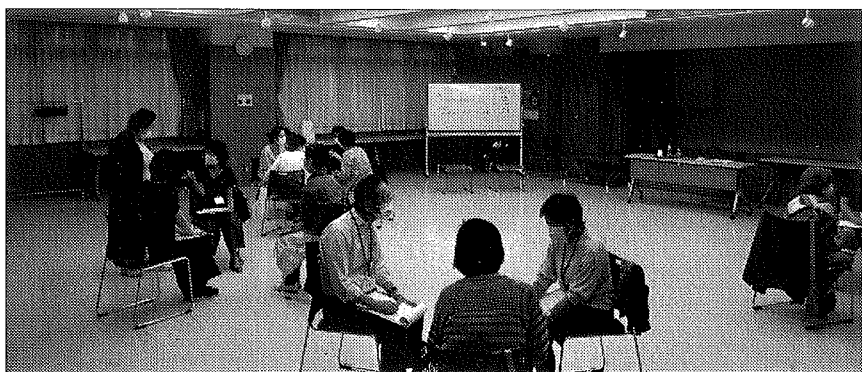
をした結果、話(議論)をする際は、相手が見える状態で対話し、「受容」と「共感」をもって対話することが大切だとの結論に至りました。そのため、LINEなどの通信上は情報(事実)の交換のみにとどめ、決めなければいけない課題があった時には、時間をかけてでも対面し課題解決に向かおうという方向を選びました。

後者については、グループ・会・組織の枠組みを作るメリックトとして、参加意識や意思の疎通、目的の明確化、団結力などが挙げられますが、その反面、閉鎖的・排他的になったり、既得権益の保持に走ったりという危惧があることを考えました。

地域をより良くしようとする思いが集まっているボランティアの集団である以上、「わたし」が必要とする場合は、もしかしたら隣の「あなた」も必要としているかもしれない、そのつながりを広げていくことが地域活動なのだという思いで、「出入り自

由・来る者拒まず・去る者追わず」の学びの場、ゆるやかなネットワークを作ることを目指しました。

ちょうど、このグループ化、ルートづくりの議論をする前に、講座を経ていない方を勉強会に



養成講座の様子（2021年度）

お誘いして、参加いただいたことがありました。まだ会（集まり）として、しっかりとしたルールづくりもしていなかった時期でもあり、参加する中で、その方が疎外感を感じてしまったということがありました。

既存のメンバーとしてみれば、その意識はなかったのですが、ことばのかけ方、話し方の一つ一つに学びが必要だという教訓をいただき、会発足の際に反省と共に議論をした結果でもあります。

グループ化までのふりかえり

先日、「わの会」のメンバー数人と養成講座から今現在までをふりかえる機会を作りました。

十数名のメンバーの内、宮本さん、伊藤さん、山田さん、安藤さん、原さんの5名からお話をうかがいました。

私が始めて気づいたことは、ふりかえりの話の中で、「生涯学習」「地域活動」といった言葉（単語）が普通に使われるようになって

いたことです。

養成講座前では、個々がほぼ使っていなかった言葉が出るというところは、それぞれの生活の中に溶け込んで、学びや地域での活動が日常になったことを表しているのではないのでしょうか。

【宮本さん】

「中央区に引越してきて、区生涯学習をきっかけに色々な人と出会い、関わる中で、お互いの人となりがわかると「何か手伝いたいな」という気持ち自然と出てきました。みんなちよつとずつ地域だったり家族だったり、親戚だったり、誰かのために行動して生活していることがわかり、それを見たり聞いたり、一緒に過ごすことで自分の意識が明らかに変わりました。」

「この会も、ここに来て話すことと聴くことで前向きになります。それぞれが色々大変なことを抱えている中、順番に話をすると、聴くを繰り返すことが自分の今の準備にもなるし、ものすごく

く影響を受けています。これからも影響や刺激も受けていたいから、形にして続けていきたいという思いもあり、今回代表を引き受けたいと思えました。」

【伊藤さん】

「カレッジで色々なことを経験して、生かしていきたいなと思っています。カレッジの講座からサークルを立ち上げたこともありましたが、今は解散してしまいました。そこでは、コミュニケーションを含め継続の難しさを感じました。今はこういう場があることがすごく助かっています。なにより「話せる」ということが大きなこと。」

【山田さん】

「講座受講以前より町の活動などには関わってきました。町の人たちとの関わりをもう一歩すすめようという思いがあり受講しましたが、今は、仕事もフルで、介護などにかかる時間もあり……という状況ですと、地域でどつぶり一つのものに関わるというのは難しいです。この会は、

そういう状況でも続けられる。自分たちの世代だと、親の介護などを抱えている方が多く、こうしたゆるやかなネットワークで続けられることを求めている人も多いのでは？と感じています。」

「この活動で顔が広がったことを実感しています。以前は、同じ町に10人程の知り合いがいる程度だったけれど、今は50人、100人の知っている顔がある。わの会の活動で、多くの人とゆるやかに関わることが嬉しいです。暇で、経済的に余裕がある人しか参加できないような活動は、私も含めて難しいし、それが理由で地域活動に踏み込めない人はいるのではないかと思う。町会活動などを含めて地域活動の壁の一つだと思います。さらに、この人たちがいるのなら来たくないと思われないうちに、この会の中に『ヌシ』をつ

くらないように、私もならないように気をつけたいいけないし、常に新鮮な思いでいたい。

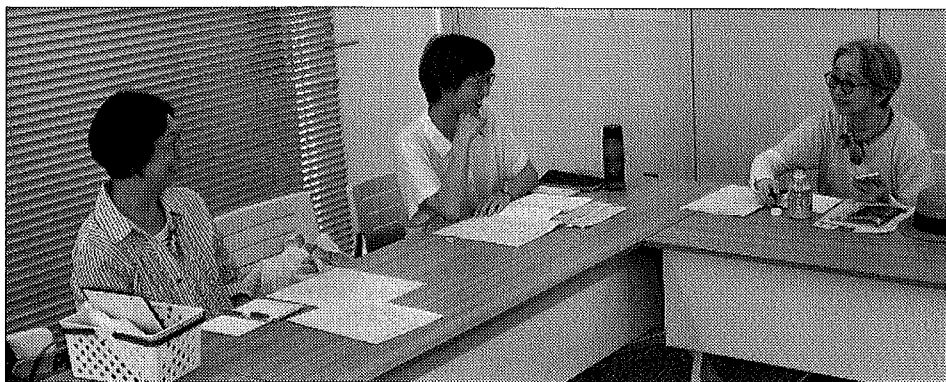
そして、この会が「地域社会の縮図」としてありたい。それをこの三年間とカレッジで学んだ気がします。」

【安藤さん】

「ひとつに関わると、次々に色々関わることになっていききました。地域活動として高齢者の通いの場の運営、町会のラジオ体操の活動と、今はできる範囲でやっています。一つ関わると、あちこちでまた関わりが増えていっている状態。講座から今まで、自分の母の介護から看取りまでを経験した中での地域活動でしたが、母を亡くした心の隙間が、毎日嵐のように色々なことが起こって埋められていると感じていました。ひとりです悶々と考えているよりは、こういう場で話して、みんなと考えたりすることが良い方向に進むコツなのではと感じています。」

【原さん】

「皆さんの周りの出来事や今悩んでいることなどを聴くことは、自分の学びになっていきます。生



「わ」の会 ふりかえり

涯学習講座を受けて、中央区のことを知るきっかけにもなりました。」

それぞれのふりかえりの話を

聴いて、何かを抱えている時に解決はしなくても、話せる場があることが貴重なのだと改めて感じました。

また、話せるだけでなく、話を聴くことも助かっているという声がありました。

正解や的確なアドバイスが必要なのではなく、話して聴く場はそれ自体が貴重で、誰にとっても必要なかと思えます。この集まりの最初のルールとして、「人の話をしっかりその人の気持ちを含めて聴く」がベースにあることが続いている理由でもあります。

きっかけとなった講座も、今の形をゴールとして想定していたわけではなく、結果として今の形をみなさんで作ったということが大きな学びだったのではないのでしょうか。

【まじのひと】になる

【伊藤さん】

「今まで傾聴の講座をいくつか受けてきて毎回、自分は向いて

いないと思っていました。養

成講座を受けた者同士、話を聴く」というペースがあるから、こうした活動ができていたのだと感じています。もともと自分のことを人に話すのが苦手というか嫌だと思っていました。『わ』の会では、『どうしてプライベートなことをこんなに話せるのだろうか?』とふと思う時、やはり周りの「聴いてくれる」に助けられているんだと納得します。」

【宮本さん】

「街で、区民カレッジで、偶然メンバーの方や、講座で知り合った方と会えると、とても嬉しく感じる。なぜかほっとします。」

【安藤さん】

「母を介護していた時、目が不自由で常に腕を取って一緒に歩いていました。母が入院して一人で歩いていると、『お母様どうなされたの?』と町で声をかけられたことがあります。その時、ハッとさせられました。町の人って、ちゃんと見ているんだな

と。」

こうした「まちのひと」になっていくことも我々の次の学びの目標です。

中央区の中で、このような小さなコミュニティをたくさん作り、それを繋げていくことが地域活動であり、「学んだことを地域にいかす」ことでもあります。これも社会教育・生涯学習の役割の一つなのだと思います。

「わ」の会の皆さんも活動を続ける中で、地域の中にどっぴりとしてきました。養成講座の頃はまだぼんやりとしていましたが、この3年間でそれぞれがすっかり「地域の人」になっています。

読者のみなさんの地域でも「社会教育」「生涯学習」をきっかけに「地域の人」になる活動を試みてはいかがでしょうか。

安西春樹（あんざい・はるき）

中央区区民部文化・生涯学習課

総括生涯学習指導員

新URL <https://www.socialedu.net/>



社会教育誌のバックナンバー



2023年4月号以降のBN（バックナンバー）

普通号 1冊935円（税込価格）
増大号 1冊1430円（税込価格）

ホームページ
大幅リニューアル

本誌とホームページを連動させて、読者のみなさまと共に、社会教育誌の世界を広げていきます。社会教育のポータルサイトを目指します！
下記の情報をどんどんアップしていきます。

- ・連載執筆者の紹介コーナー
- ・本誌の記事をさらに深掘りできる記事、資料
- ・「社会教育 関連情報」社会教育、生涯学習関連のイベント、セミナーなどの情報・開催イベントに関する記事、情報（読者交流会、オクトバーラーニングなど） and more!!

